



家電から出る蒸気による 乳幼児のやけどを防止するために



設置場所について

電気炊飯器、電気ポット、電気ケトル、加湿器（スチーム式）から出る蒸気は、数秒触れただけでやけどを負うおそれがあります。乳幼児が蒸気に触れることがない位置に設置するなど、十分注意しましょう。



購入の際は

高温蒸気への対策機能を表示した家電は、表示していないものに比べて、蒸気温度に明確な差がありました。

特に乳幼児がいるご家庭では、蒸気によるやけどを防止するため、高温蒸気への対策機能（蒸気レス、蒸気カット、蒸気セーブ等）が表示されたものの購入を積極的に検討しましょう。



本内容の詳細は、独立行政法人
国民生活センター公式サイトに
掲載しています。
<https://www.kokusen.go.jp>



最新号やバックナンバーは
こちらからご覧いただけます。

公式サイト「くらしの危険」コーナー
<https://www.kokusen.go.jp/kiken/index.html>



●「くらしの危険」は、全国の消費生活センター、医療機関等から収集した情報をもとに、被害や事故の未然防止・拡大防止のために作られています。●特定の商品・サービス等を推奨するものではありません。●商品やサービス、設備によって起きた事故の情報を最寄りの消費生活センターにお寄せください。●無断転載はお断りいたします。

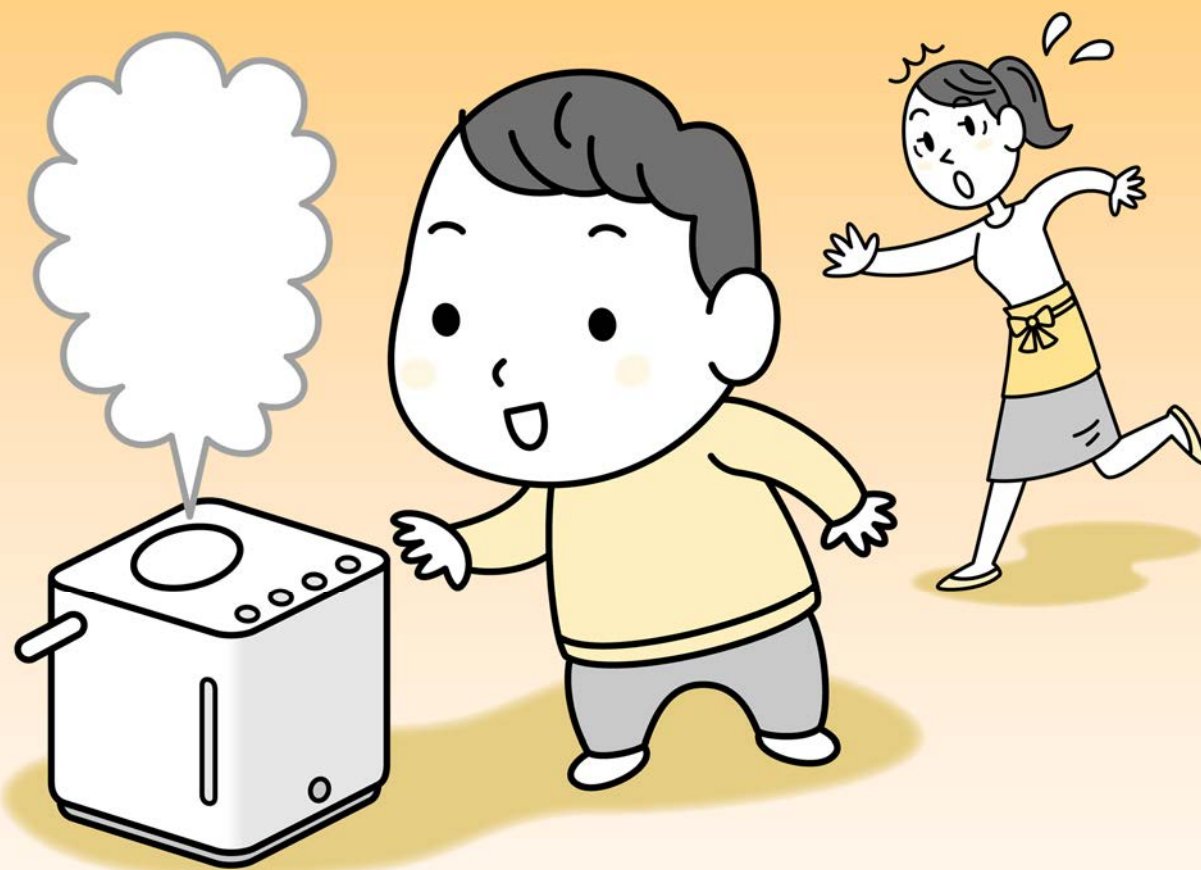


独立行政法人
国民生活センター

〒252-0229 神奈川県相模原市中央区弥栄3-1-1 TEL: 042-758-3165 ● 2022年 1月発行
イラスト: 川崎 敏郎

くらしの危険 Number 365

家電から出る蒸気による 乳幼児のやけどにご注意！



家電の中には、電気炊飯器、電気ポット、電気ケトル、加湿器（スチーム式）等、稼働の際、高温の蒸気が出るものがあります。

もし、これらの高温の蒸気に触れてしまうと、やけどを負う可能性があり、大変危険です。特に乳幼児は、大人より皮膚が薄いため、やけどのダメージが皮膚の奥深くにまで及び、重傷化します。

乳幼児が蒸気に触れることがない位置に設置するなど、取り扱いには十分注意しましょう。



乳幼児がやけどを負った事故が起きています

「医療機関ネットワーク※¹」と「医師からの事故情報受付窓口※²」に、電気炊飯器、電気ポットや電気ケトル、加湿器（スチーム式）の蒸気により乳幼児（0～5歳）がやけどを負った事故情報が寄せられています。

※¹：消費者庁と国民生活センターとの共同事業で、消費生活において生命または身体に被害が生じた事故に違い、参画医療機関を受診したことによる事故情報を収集するもので、2010年12月から運用を開始しました。

※²：消費者が商品・役務の利用等により事故に遭い医療機関を受診した情報を直接医師から得ることで、事故情報を早期に把握し、再発・拡大防止に役立てるため、国民生活センターでは2014年8月より「医師からの事故情報受付窓口」（愛称：「ドクターメール箱」）を開設しています。



「医療機関ネットワーク」に寄せられた事故情報

電気炊飯器

床から50cmくらいの高さで、スライドで引き出す棚の上で炊飯をしていた。熱い蒸気を感じてしまい、やけどをした。手指Ⅲ度熱傷^{*}。
（事故発生日：2016年8月、1歳1カ月・女児）

電気ポット

キッチンの床に置かれた電気ポットの蒸気口に手を当ててしまった。沸かしている最中で蒸気口から湯気が出ていた。手指Ⅱ度熱傷^{*}。
（事故発生日：2018年4月、10カ月・男児）



「医師からの事故情報受付窓口」に寄せられた事故情報

加湿器（スチーム式）

加湿器に触れ、やけどをした。左手の手指・手掌の深達性第Ⅱ度～第Ⅲ度熱傷^{*}となり、手術（デブリードマン・植皮術）を要した。今後、はんこんこうしゅく癒痕拘縮予防の装具装着や将来的な修正が必要になる可能性があり、長期フォローを要する。

（事故発生日：2021年2月、1歳0カ月・男児）

★ 熱傷

皮膚のどの深さまで損傷が及んでいるかで分類されます。
Ⅰ度＝表皮のみ、Ⅱ度＝表皮よりも深い真皮まで、Ⅲ度＝皮膚全層、さらに皮下組織まで損傷が及ぶ熱傷のこと。



高温蒸気が出る家電について調べてみました

アンケート調査

0～5歳の乳幼児を育てている5,000人に対し、インターネットアンケートにより、蒸気による乳幼児のやけどに関する調査を行いました。



アンケート調査結果まとめ

- ① 約1割の人が、「乳幼児がやけどをした」または「やけどをしそうになった」経験がありました。
- ② 約4割の人が、乳幼児がやけどすることを想定していませんでした。
- ③ 乳幼児がやけどをしたことがない人は、高温蒸気が出る家電の設置位置を高くしている傾向がみられました。
- ④ 7割前後の人が、「高温蒸気への対策機能[■]」が付いた家電があることを知りませんでした。
- ⑤ 7割以上の人が、やけどの危険を回避するためには、乳幼児の手の届かないところに家電を設置するべきだったと回答しました。
- ⑥ 高温蒸気でのやけどを防止するため、6割以上の方が蒸気を出さない家電を望んでいました。

商品テスト

高温蒸気が出る家電製品について、蒸気口付近がどのくらいの温度になるのか、また「高温蒸気への対策機能[■]」が表示されている製品の温度とどのくらい差があるのかを調べてみました。

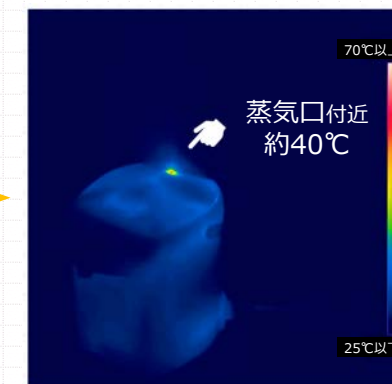
テスト動画
QRコード



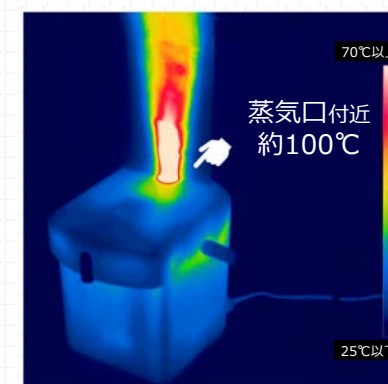
結果 例えば、電気ポットの場合、

「高温蒸気への対策機能[■]」を表示していたものでは、蒸気口付近で約60℃以上低いものもありました。

高温蒸気への対策機能[■]の表示 あり



高温蒸気への対策機能[■]の表示 なし



【電気ポット湯沸かし中の温度分布状況】

■ 高温蒸気への対策機能

本資料内の「高温蒸気への対策機能」とは、「蒸気レス」、「蒸気カット」、「蒸気セーブ」等やけどの防止や熱気・湿気を抑えるなどのために蒸気の外部排出を抑制する機能のことを指します。